

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で共通認識を持つため、年度初めの職員会議で理念に係長や課長が全員の前で報告し、確認。基本方針と実践計画と合わせて説明し、実践に取り組んでいる	全職員は年度末の反省・振り返りを、次年度の計画に活かし理念の共有と実践に繋げている。職員は「皆様の笑顔と生活を大切にします」の法人の方向性を記したカードを名札と一緒に携帯し、いつでも確認が出来るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭・収穫際などに地域住民も招き交流を深めることが出来ている。また施設のある地域で行っている行事に参加し地域住民の皆様との交流も図っている	地域の方から自由に参加してもらうため、回覧板や区長によるTV電話のアナウンス等、積極的に呼びかけがなされている。地域のグリーン作戦へは職員が参加したり、日常的に畑仕事の住民との交流や散歩中の犬も事業所に寄ったりといった近隣に住む人達とふれあう機会は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お祭りや、収穫際などに地域住民も招き交流を深めることが出来ているが、日頃から何も無くても地域の方が施設に来て、認知症の人と関われる場になれば良いと感じている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告に対して委員の方から厳しい意見・指摘・アドバイスを戴きチェック体制の強化を行いサービス向上に取り組んでいる。	運営推進会議は、利用者、利用者の家族、区長、民生委員、地域包括支援センター職員等のメンバーで構成され、利用状況や事故報告について話し合いを行っている。会議での要望を受け、事業所前の休憩ベンチや自販機の設置をし、利用者や職員、地域の方との憩いの場として大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、毎回地域包括支援センターの職員に参加いただいている。事業実績やサービス、取り組み事項について説明し、助言をいただいたり、情報の交換を行っている。	市町村の担当者から指導・指摘を受け助言をもらっており、小さいことでも連絡・相談し合う顔の見える関係が築かれている。また定期的に地域ケア会議に出席し連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	GH会議の中で話をしたり、スキルアップ委員会の研修等を等して事業所全体で防止に努めている	事業所の事故権利委員会や介護職員のスキルアップ委員会主催で研修が実施されている。玄関の施錠は行わず（夜間は防犯のため施錠）いつでも外に出掛けられる環境を提供している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的研修を行い学ぶ機会を設けて、虐待防止に努めている。また夜間は防犯のため行っているが、日中に関しては玄関の施錠は行っていない。	法人の高齢者虐待防止の全体研修に参加している。また、月1回の定期的な会議で話し合いが行われ、「不適切なケア」等が行われていないか言葉遣いなど日々見直しを行い、お互い注意し合いながら利用者の支援に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者様で一人成年後見人が付いている方が居る。個人的には学ぶ機会がそれぞれあったが、全体での研修や学びを深める様なことはできていないと感じる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者やご家族様とは直接契約で説明を行っている。加算取得に関する利用料金の変更については説明を行い同意書で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からは定期的に意見や要望を聞けるよう、個別に話を聞く場を設けている。また、ご家族とはご利用者の様子や連絡事項については密に連絡を取り、意見や要望をお聞きしている。	家族へはアンケート調査を行ったり、面会時や電話連絡の際に、事業所での暮らしぶりや様子を説明し、意見・要望を聞き取るように努めている。職員は、利用者一人ひとりと関わる中から意見を受け止めサービスに反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に二回管理者と職員とで面談をもうけている。毎月開催しているGH会議の中では職員の意見を聞けるよう工夫し会議を進行している	会議を毎月開催しお互いが意見を言える環境を整備している。職員からの勤務時間等の意見が上がり、今後、施設運営会議で検討が行われる予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ実施している。また、年二回の面談を通し職場環境や業務改善条件の設備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通じて研修計画を立て実施している。外部の研修へも参加機会も確保。また日頃の業務の中で、気になった部分はその日の内に指導したり、話をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修で定期的に交流する事が出来ている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面談を実施その他、入居前に利用していた事業所からの情報を収集し本人の安心を確保する為の関係作りに努めて居る		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族とケアマネと面談し、不安や要望の聞き取りを行い話しやすい環境作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族との面談より必要としている支援を見極め他サービス利用も含めて説明し対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事・得意なことに関しては、職員や同居する仲間同士で一緒に行って頂ける様声がけを行い参加載っている		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは定期的に連絡を取るよう心掛け、状況報告や状態の報告を行うと共に、状態によっては今後の相談などもさせて戴いている。施設側・ご家族様側で共にご本人様を支えて行く関係作りに努めている。	通院は日常の状態を伝えるため付き添い、家族へはその結果を丁寧に報告している。また、本人の希望が叶うよう、月に数回家族と外出できるよう対応し良い関係を築いていくための支援に努めている。	毎月、事業所のグループ通信が発行され外出支援の様子が写真によって家族へ伝えられている。今後は、担当職員より一人ひとりの利用者の状況や職員のコメント等を添えたり、日常生活の様子を伝えること。また、家族へは、どんな些細なことでも連絡が出来ることを伝えるなど、共に本人を支えていく関係の継続が期待される。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類・知人が他事業所を利用している場合は他事業所まで遊びに行きお話が出来るよう支援している。また買い物などの外出の機会の確保に努めている	ドライブを兼ねて他事業所を利用している知人を訪問したり、墓参りに行く等の希望には柔軟に対応している。友人と出掛けたり、お茶飲みに来られる地域の方もおり、馴染みの方との関係が途切れないことを大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が関わりを持ち、共同作業や会話レクリエーションを楽しむ事が出来るよう、工夫し全員が楽しく暮らしていけるように環境作りに努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ相談や情報提供を行っている。また退所されたご家族様などとお会いする機会があれば話をしたり声を掛けたりしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様に担当職員が付いており、ご利用者の意向を確認したり、実現に向け話をしている。月一回の会議の時に無いうを検討している。その他、管理者も各居室に入り、利用者様と話をし対応出来るようにしている	利用者の思いを管理者が居室で聞く機会を設けている。雑談から色々な思いや意向を聞き出し、毎月1回の検討会議にて、職員みなで話を出し合い、一人ひとりの思いに寄り添い生活を支えている。		
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や今までの暮らしに関し情報を収集してこれまでの暮らしがどのような状態だったのか把握に努めている	入所までの生活歴についてはアセスメントシートや家族、本人から好きな物、好きな事、嫌いな物、嫌いな事などを丁寧に聞き取り把握し支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や、毎日のミーティングで申し送りを行い全職員がご利用者の状態の把握に努めるようにしているが職員によってムラが目立つ。改善していけるようにしたい			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・関係者と話をする時間を設けるようにし意見を戴く様にしている。その他各利用者様担当職員に月間報告書の提出を依頼し、確認して介護計画に反映できるようにしている	各利用者の担当者からモニタリングしたものを管理者に提出し、介護計画に反映させている。家族が来所される機会を利用して、話をしたり、遠方の家族へは、電話連絡をして確認をしている。本人の現状把握に努めて反映させようとしている。	介護計画を作成するためのカンファレンス等が上手く機能していない現状が窺えるが、毎月の本人の様子や変化を手紙で伝えるなどの準備をしていることから今後の対応に期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・連絡ノート・業務日誌・申し送りを活用し職員間の情報の共有を行っているが、25番の設問同様で個々によりムラが目立つ。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急受診や、買い物は勿論だが、予定していなかった外出支援もご利用者様に楽しんで頂ける様柔軟な対応に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内行事には、地域の方々や区長さんに来所して戴き楽しんで戴ける環境を取り組みを行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族対応で受診している方もいるが緊急時などはGHの職員が対応する事もある。現在は、できる限りGHの職員・管理者で受診対応出来るように努めている	利用者それぞれのかかりつけ医に受診している。定期受診は家族の付き添いで行っているが、緊急時などは職員で対応することもある。体調管理や受診の判断は、同法人の看護師が判断している。主治医との連携は施設管理者が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置は無いが、異変時は職場内の看護師に相談や助言をもらう事が出来る環境がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ご本人様が安心して治療し快方に向い早期退院が出来るよう管理者中心として面会に行き、相談員との情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とは当事業所が出来る事の説明を行い、必要に応じ関係機関との連絡や調整を支援している	現在100歳を超える利用者が居られ、最期まで事業所での生活を希望されているとのことである。残念ながら事業所での看取りの体制は出来ていない現状もあり、最期は病院へ行くことを了解してもらっている。事業所で出来る事、出来ない事の事前説明を行い了解を得るように努めている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応で、フロー・緊急連絡網の作成をし全職員で確認をしている。また、年に一回は救急法の訓練をし、緊急時に備えている	急変時の対応としての緊急連絡網、マニュアルは確認できた。今年の訓練は7月10日に予定している。また緊急時のフローチャートも整備されており、日々の業務の中で、実践できるように努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いのもとで避難訓練の実施をしている。また区長には、災害や緊急時には連絡をすることで地域全体で協力を戴ける様依頼してある。	自然災害に備えた訓練も定期的の実施されており、同一建物内の事業所との協力も得ながら、自然災害の対策に備えている。備蓄に関しては法人で管理している。	自然災害に備えた取り組みとして、定期的な訓練や地域との連携は取れているが、災害の備えに事業所独自のものとした備蓄が準備されることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設全体の研修の中で接遇やプライバシー保護の研修を実施し取り組みを行っている。	日々の業務の中で、またはその時々で意識して言葉かけなどに配慮している。法人理念に基づき、笑顔で穏やかに生活できるように努めている。職員同士で気づきや声かけなども配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一日の流れが出来上がっており、ご利用者様にこの時間はこれがしたいと言うような選択肢は与えることができていないことが多々ある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて希望に添った対応が出来るように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の身だしなみや整容には気をつけて対応している。事業所に来る理容師に定期的に散髪して貰うことが出来る。また本人の希望があれば洋服の買い物に行ったり、カタログで買い物したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の見守りの中、野菜切りを行っている。ほか果物などの盛りつけを時々行って戴いたり、お盆拭きなどにも参加戴いている	食事へのこだわりがあり、法人内の管理栄養士が計画したものを参考にしている。中でも変わりメニューは人気がある。食事を食べる雰囲気も良く、美味しく食べる工夫がなされている。下ごしらえの野菜切などは、得意な利用者は手伝っている。準備や片付けなども得意な事を活かしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立作成の元栄養管理・摂取を図っている。水分については、好んで飲まない方に関しては特に声がけを徹底している。好んで飲まれる方は、日に2ℓ以上飲用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアに帯する声がけの徹底をし、実施して戴いている。何名か見守り・介助を要する方には、職員が対応している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンの把握は出来ておらず、チェック表の確認をしたり、本人に確認する事が多々ある。	利用者、一人ひとりの排泄パターンの把握は難しく、まだ出来ていないが、把握に努め、トイレでの排泄を心がけている。トイレも数か所あり、部屋から行きやすいトイレの使用が通常となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・運動不足にならないように声がけ。レクや好天時の散歩・体操への促しなど行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	施設の都合上で午後からとなっている。入浴日も固定だが、その日の状態や体調を考慮し日程をずらす工夫をしている。また、個別浴対応で入浴を楽しんで戴けている。	入浴に関して、同性介助を希望される利用者も居られるので配慮に努めている。浴室が他事業所との共有になるので、午後から2～3人を同じ職員が介助している。楽しく入浴ができる工夫で変わり湯なども行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣に合わせて自由に休息を取って戴いている。その他安眠出来るように日中帯のレク・体操・好天時の散歩等身体を動かす取り組みを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全体の認識不足が顕著。今回施設の看護師より研修して貰い、薬の大事さを研修した。用途・効能だけではなく副作用の確認や症状に関しての確認方法など大事なことを学ぶことが出来たので、継続して欲しいと感じる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	担当が主となり、ご利用者の好きなこと・出来る事の把握を行い気分転換が出来るように努めて居る		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中は好天時は散歩に出たり、希望時は町内にはなるが買い物支援にも努めている。他季節には観桜ドライブ・紅葉ドライブなどの支援をしている	毎月、計画的に外出の機会を設けている。遠くは新潟市内のマリンピアまで出かけたり、足湯に出かけたり、毎日の買い物は利用者のどなたかを連れて行っている。7月は、鉄板焼きなども楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の状況に合わせ法人と金銭管理契約を結びお金を預かる支援やご利用者の日用品や必要な物の購入に関し買い物の同行を支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望があった際は、電話を架けることが出来るよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや居室近くには大きな窓が有り、外の景色を楽しむ事が出来るようになっている。季節によって咲く花や、GHで作った畑などを見たり楽しむことが出来る。またホール内も季節を感じて貰えるような壁画の用意をし居心地良く暮らせる環境・空間を工夫している	ホールから眺める山や畑の景色が、気持ちを癒してくれる。またホール内には壁画や、居室ごとの工夫が随所になされている。季節の花や動物の絵や写真も飾られている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者同士で居室の行き来をしたり、個室で一人になりゆっくり過ごしたりと工夫が出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具以外にご本人が以前使用していた、寝具や日用品の利用、またご家族の写真を飾るなどし居心地の良い環境作りを工夫している	備え付けの家具以外は本人の馴染んだものを持参可能となっている。時計や写真を自由に持ち込んでいる。居室の掃除は、本人を交えて、職員も手伝いながら、居室の環境整備に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには表記し、居室が分からない方には居室に名前を貼ったり、目印をつけて対応している		